



藤井 弘一  
(統一)

**タンチョウツルの野生復帰へ取り組みを**

**問** 八幡山公園やろまんちつく村では、友好都市のチチハル市から譲られたタンチョウツルを飼育している。

①ケージの中で飼育するのではなく、自然環境の中で飼育した方が良いと思うがどうか。また、宇都宮の自然の中に放鳥する「野生復帰」の実現に向けた飼育方法は。

②タンチョウツルを市の鳥に指定し、地域おこしやまちづくりをしては。

**答** ①自然の中での飼育や野生復帰には、自然に恵まれた広大な用地や、幼鳥時からの訓練など様々な課題があるので、想定される課題の整理や実現の可能性を検討していく

が、既存施設をより良好な飼育環境とするため、八幡山公園のケージに人の視線をさえぎり、ストレスを緩和するような工夫を加えるなど、自然な環境に近づける飼育方法を検討していく。

②市の鳥の制定は、市民がより一層市に誇りと愛着を持つための方策の一つであるため、在り方について調査研究していくが、八幡山公園では、動物舎のシンボリック的存在であるタンチョウツルを公園のマスコットとしてPRちらしやホームページで活用するなど、公園の利用促進につながる取り組みを進める。



▲タンチョウツル

**その他の質問項目**

- ①市長の政治姿勢(権腐十年ほか)
- ②防災危機管理(行政)
- ③都市・農村計画④耕作放棄地の自然回帰⑤ゴルフ場の事業転換
- ⑥ミツバチの効力と農業による農業問題と環境問題への警鐘
- ⑦消防行政(消防本部の耐久性と敷地拡張、北消防署の新設(カウンセリング))



西 房美  
(改革)

**団体への補助を適正に**

**問** NPO法人宇都宮まちづくり推進機構について聞く。

①LRTの導入推進に向けた提言や、普及啓発のためのシンポジウムを行ったそうだが、このような団体に市民の尊厳を税をつぎ込むことは許せない。市長は正しいことだと思っているのか。

②市長、副市長、総合政策部長は会員か。会費は税金から支払っているのか。

**答** ①公的団体と連携し、魅力ある中心市街地の形成に取り組むなど、市の将来の発展に寄与することを設立目的とする、民間の団体・個人の会員で構成された法人であり、自ら主体となって、各種

活性化事業などに取り組んでおり、公共性・公益性が高いため、事業費などの一部を補助している。提言などを行った背景は、LRTの整備を、この団体が取り組む中心市街地の活性化に寄与する事業として捉え、推進に向けたシンポジウムの開催や、提言書を提出したと聞いている。

②市と一体的なまちづくりを図るため、総会の議決を経て、副市長、総合政策部長が理事に選任されているが、市長以下、会員にはなっておらず、会費は納めていない。

**その他の質問項目**

- ①LRT(路面電車)の計画
- ②公共施設等の老朽化対策はあるのか
- ③宇都宮美術館における視覚障がい者の誘導
- ④災害に対する対策はあるのか
- ⑤自治会長の政治活動と選挙運動等
- ⑥特定化学物質(PCB)



鎌倉 三郎  
(自民党)

**宮のものづくり人材の育成を**

**問** 宮のものづくりと宇都宮共同高等産業技術学校について聞く。

①ものづくりの人材育成若者の就労支援の拠点施設である同校に対し、支援の拡大充実としては。また、同校で宇都宮の伝統工芸を維持継承するための人材育成を図ってはどうか

②同校は、施設の老朽化が進んでいることから大規模改修や代替施設を検討すべきでは。

**答** ①ものづくり産業は、技術・技能をいかに継承していくかが課題となっている。同校は、働きながら技術・技能を修得する訓練を受けられる施設であり、経費は、国・県が75%、14の中小企業の

事業主で構成される同校の運営会が20%、市が5%の割合だが、27年度は市の伝統工芸品の技術を習得する新たな科目の開設を計画しており、市独自で27年度予算に運営補助金を増額計上した。

今後も、ものづくりに関する人材の育成と伝統工芸の維持・継承の支援に取り組んでいく。

②整備後47年目を迎えた校舎は、毎年の点検結果に基づき、修繕などで対応しているが、最近では、フラワー装飾科の女性訓練生が増加することから、環境改善に向けた施設の改修について、今後検討していく。

**その他の質問項目**

- ①市長の政治姿勢(今後の市政運営と意気込み、LRTの推進)
- ②中心市街地活性化(県庁周辺の跡地利用ほか)
- ③たばこ税の活用あり方
- ④指定金融機関
- ⑤上下水道行政(今後の対応と将来の見直しほか)
- ⑥消防行政(消防本部の移転ほか)